

最近の管内経済概況

(2022年7月の経済指標を中心として)

～ 持ち直しの動きに弱さがみられる ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、弱含みとなっている。
- 個人消費は、一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- 観光は、持ち直している。
- 公共工事は、増加した。
- 住宅建設は、一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- 民間設備投資は、増加している。
- 雇用動向は、弱い動きがみられる。
- 企業倒産は、件数は同数、負債総額は減少した。

全体として、管内経済は、持ち直しの動きに弱さがみられる。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2022年10月18日

照会先 : 経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <https://www.hkd.meti.go.jp>

管内経済概況判断の推移

(2022年9月現在)

発表月	2022年4月	5月	6月	7月	8月(※)	9月(※)	前月との判断比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きが弱まっている	<u>持ち直しの動きに弱さがみられる(↗)</u>	<u>持ち直しの動きがみられる(↗)</u>	<u>持ち直しの動きに弱さがみられる(↘)</u>	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	
生産活動	持ち直しの兆しがみられる	<u>持ち直しの動きがみられる(↗)</u>	持ち直しの動きがみられる	<u>弱含みとなっている(↘)</u>	弱含みとなっている	弱含みとなっている	
個人消費	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	<u>一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる(↗)</u>	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
観光	弱い動きがみられる	<u>一部に持ち直しの兆しがみられる(↗)</u>	一部に持ち直しの兆しがみられる	一部に持ち直しの兆しがみられる	<u>緩やかに持ち直している(↗)</u>	<u>持ち直している(↗)</u>	
公共工事	増加している	増加している	<u>減少している(↘)</u>	減少している	減少した	<u>増加した(↗)</u>	
住宅建設	<u>弱まっている(↘)</u>	弱まっている	弱まっている	<u>弱い動きとなっている(↘)</u>	弱い動きとなっている	<u>一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる(↗)</u>	
民間設備投資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇用動向	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	
企業倒産	件数は減少、負債総額は増加している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも増加した	件数は同数、負債総額は減少した	

(※) 8月(6月指標)及び9月(7月指標)については、10月に発表。

注：下線部は、前月から判断を変更した部分。

 上方修正  据え置き  下方修正

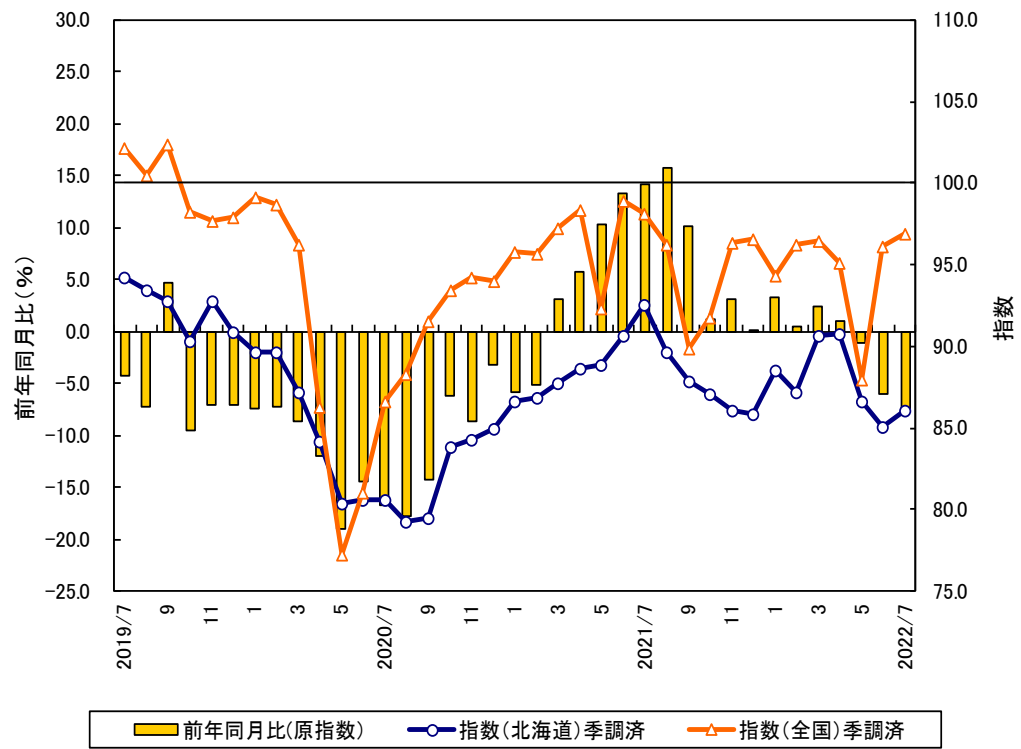
生産活動 ～ 弱含みとなっている ～

7月の鉱工業生産は、前月比+1.2%と3か月ぶりに上昇した。前年同月比は▲7.5%と3か月連続で低下した。上昇業種は、一般機械工業など8業種となった。低下業種は、食料品工業など6業種となった。

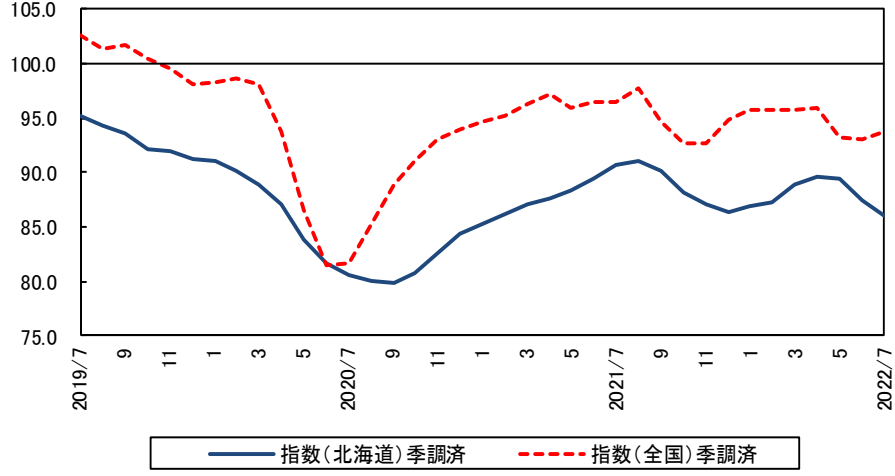
< 7月 >			
季節調整済指数			
北海道（確報）	86.1	（前月比+ 1.2%）	
全 国（確報）	96.9	（前月比+ 0.8%）	

	業 種	前月比 (%)	前年同月比 (%)	主な品目
上昇 8業種	一般機械工業	+ 50.3	▲ 11.6	一般機械
	鉄鋼業	+ 12.8	▲ 15.6	鋼半製品
	輸送機械工業	+ 6.5	▲ 10.2	自動車部品
低下 6業種	食料品工業	▲ 4.2	▲ 0.7	冷凍水産物

鉱工業生産指数 (2015年=100.0)



鉱工業生産指数の推移 (3ヶ月後方移動平均)



(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

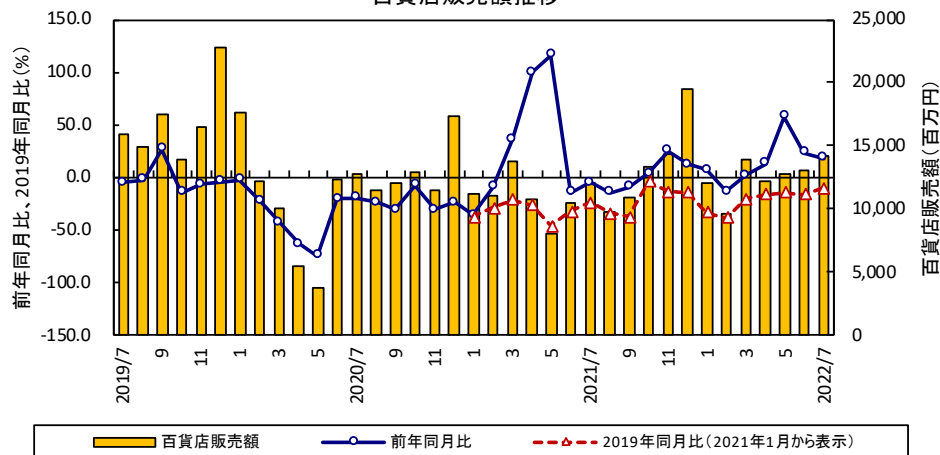
個人消費 ～ 一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる ～

7月の個人消費は、家電大型専門店、ホームセンター、新車販売は前年を下回ったものの、他の4業態は前年を上回った。

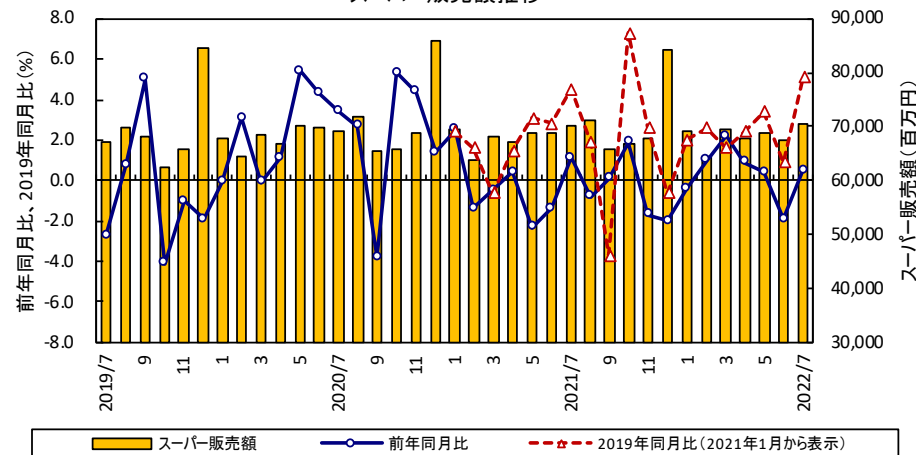
※2019年同月比は、北海道経済産業局「北海道百貨店・スーパー販売動向」掲載の販売額などから算出。

- ・百貨店は、全体的に売上げが好調で、前年同月比+17.8%（2019年同月比▲10.5%）と5か月連続で前年を上回った。
- ・スーパーは、衣料品の売上げが不調だったものの、飲食料品が好調で、同+0.5%（同+5.1%）と2か月ぶりに前年を上回った。
- ・コンビニエンスストアは、同+3.7%（同+3.4%）と9か月連続で前年を上回った。

百貨店販売額推移

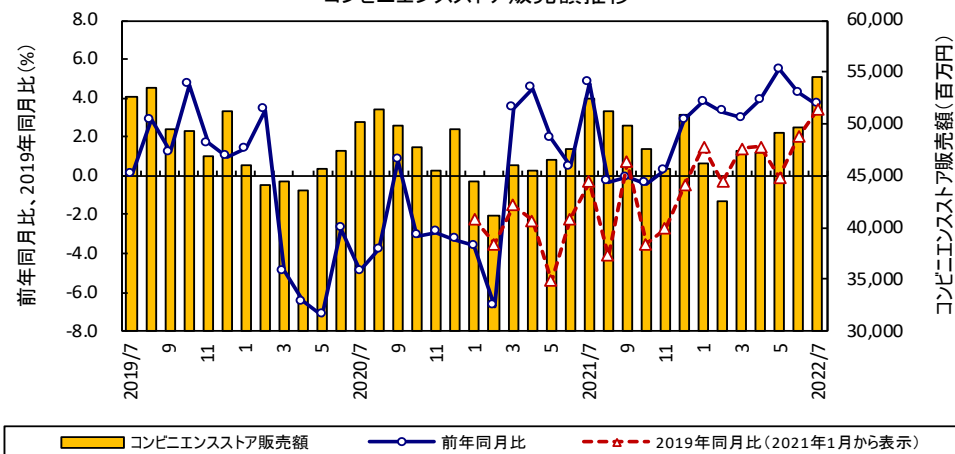


スーパー販売額推移



※ 2020年3月に対象事業所の見直しを行ったスーパーの2020年2月以前の販売額については、整合性を図るため調整済み。

コンビニエンスストア販売額推移

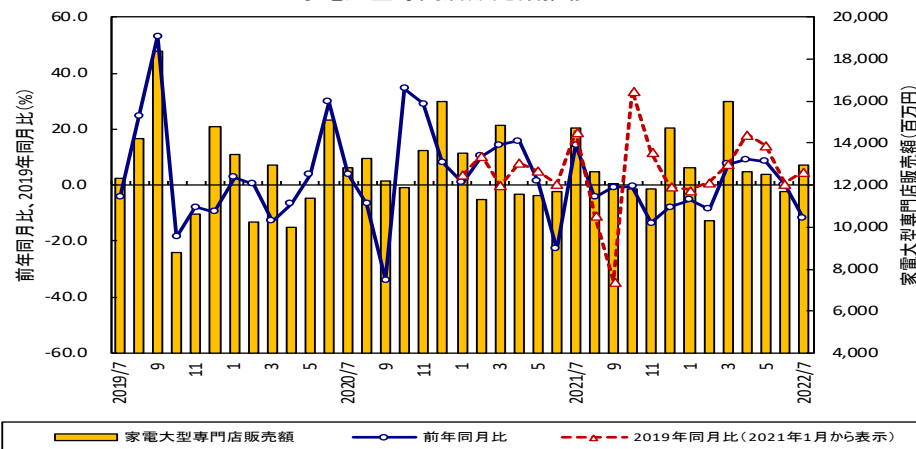


【ヒアリング内容】

- ・今年は行動制限がなく外出の機会が増えたことから、客数が増加し全体的に売上げが良かった。特にブランド品などの高額商品の売上げが引き続き好調だった。（百貨店）
- ・3年ぶりに行動制限のない夏となり、浴衣や水着などの行楽関連商品の売上げが良かったものの、月後半は真夏日が続いた前年ほど気温が上がらなかったことから、衣料品の売上げが伸び悩んだ。飲食料品は、惣菜の販売が好調だった一方、商品の値上げが続いている。（スーパー）
- ・商品の値上げが続いている。一方で、引き続き外出の機会が増加していることから、売上げが前年を上回った。旅行客も増えており、観光地や繁華街の店舗の売上げが好調だった。（コンビニエンスストア）

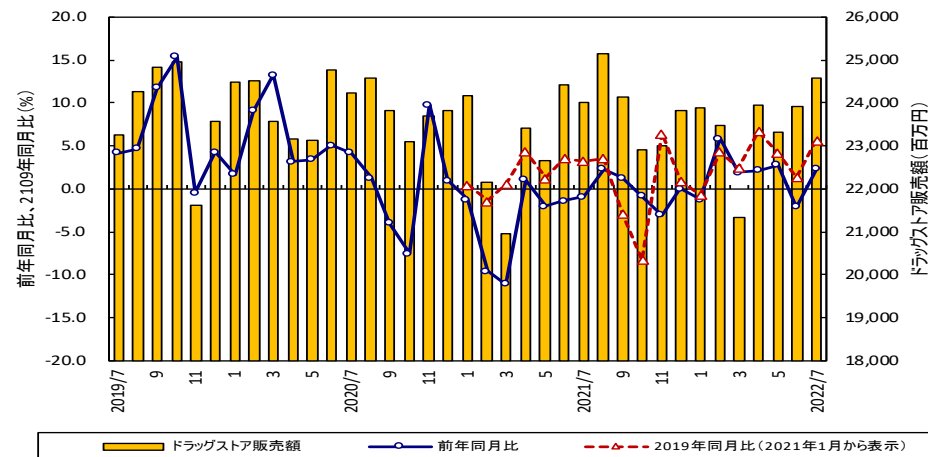
- ・家電大型専門店は、同▲11.8%（同+5.0%）と5か月ぶりに前年を下回った。ドラッグストアは、同+2.3%（同+5.7%）と2か月ぶりに前年を上回った。ホームセンターは、同▲5.2%（同+9.8%）と3か月連続で前年を下回った。
- ・新車販売は、同▲4.8%（同▲21.1%）と13か月連続で前年を下回った。

家電大型専門店販売額推移



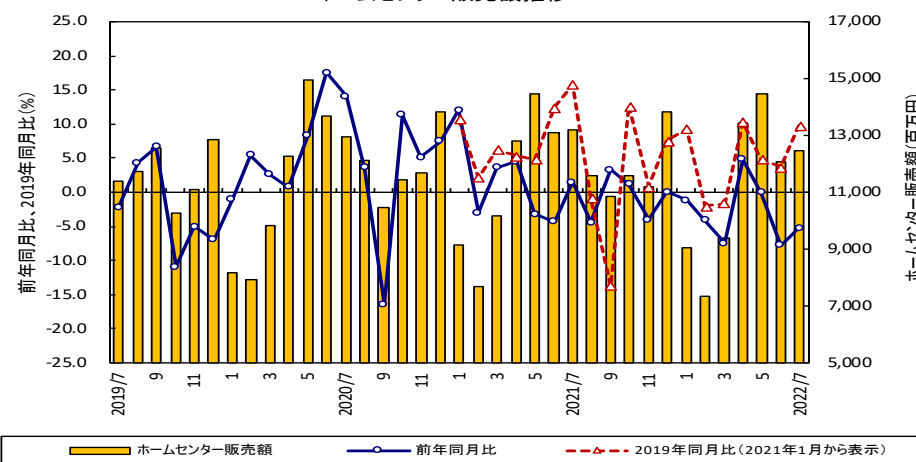
（資料：北海道経済産業局）

ドラッグストア販売額推移



（資料：北海道経済産業局）

ホームセンター販売額推移

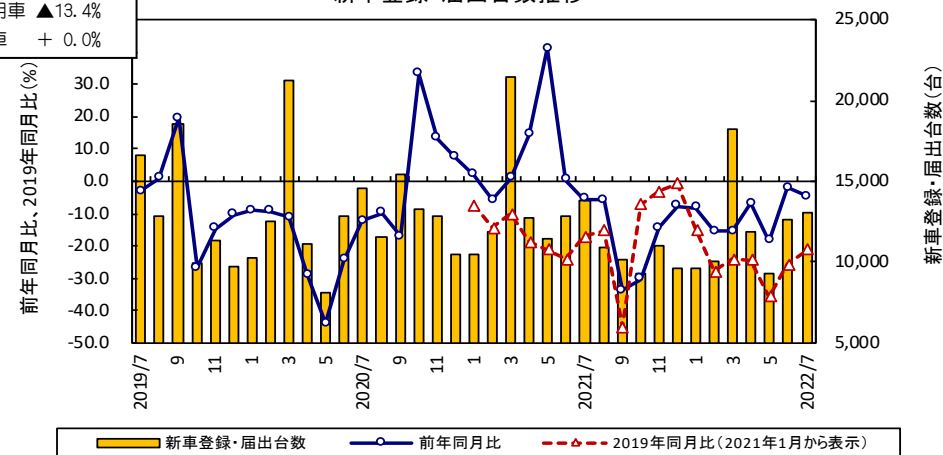


（資料：北海道経済産業局）

< 7月 >

普通乗用車 ▲ 1.0%
小型乗用車 ▲ 13.4%
軽自動車 + 0.0%

新車登録・届出台数推移



（資料：（一社）日本自動車販売協会連合会、（一社）全国軽自動車協会連合会）

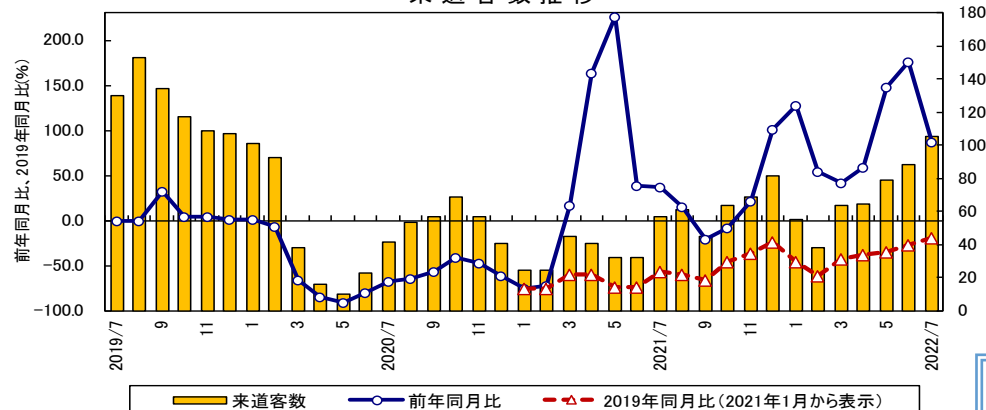
【ヒアリング内容】

- ・前年は7月中旬から真夏日が続き、エアコンの売上が大きく伸びた。今年は早めに購入する動きがみられ、7月の売上げは前年を下回った。また、前年のオリンピック需要の反動で、テレビの売上げも良くなかった。（家電大型専門店）
- ・引き続き外出の機会が増えていることから、化粧品の売上げが好調だった。（ドラッグストア）
- ・前年好調だった扇風機などの暑さ対策商品の売上げが良くなかった。（ホームセンター）

観光 ～ 持ち直している ～

7月の来道客数は、前年同月比+86.4%（2019年同月比▲18.8%）と9か月連続で前年を上回った。また、道内外国人入国者数は、1,404人（前年同月差+1,401人）であった。

来道客数推移

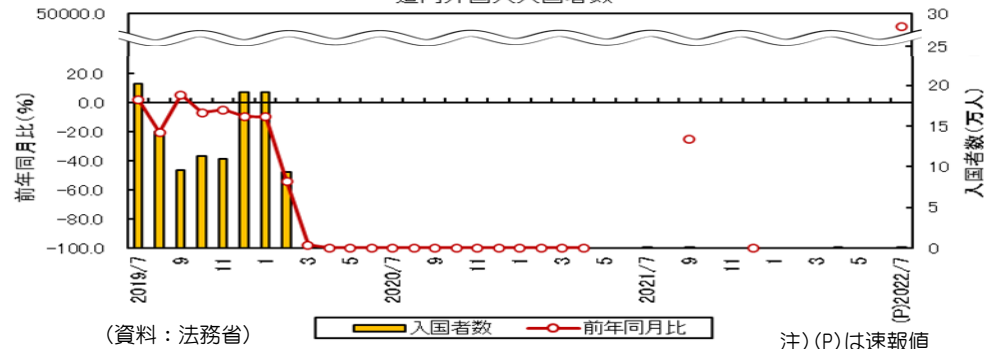


< 7月 > 来道客数 1,054,495人 (+86.4%)

※北海道外から航空機（国内線）、JR（北海道新幹線）、フェリーを利用して来道した旅客数。
※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

（資料：（公社）北海道観光振興機構）

道内外国人入国者数



（資料：法務省）

注) (P)は速報値

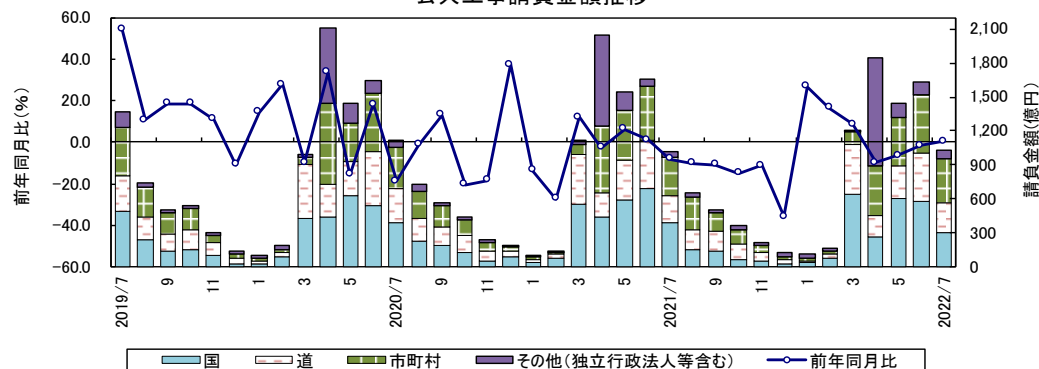
【ヒアリング内容】

- 7月は、自治体による宿泊助成の延長などもあり、道内外からの観光客は好調。宿泊客限定のイベントを実施中だが、前年よりも参加人数が多く、宿泊客数の回復を実感。一方、外国人宿泊客はそれほどみられなかった。8月の夏休みシーズンは、親子連れを始め多くの観光客がみられ、土産物屋の売上げは前年より良いと聞いている。（観光協会）

公共工事 ～ 増加した ～

7月の公共工事請負金額は、国は前年を下回ったが、道、市町村が前年を上回り、前年同月比+0.3%と4か月ぶりに前年を上回った。

公共工事請負金額推移



< 7月 >

北海道 + 0.3%

（内 訳）

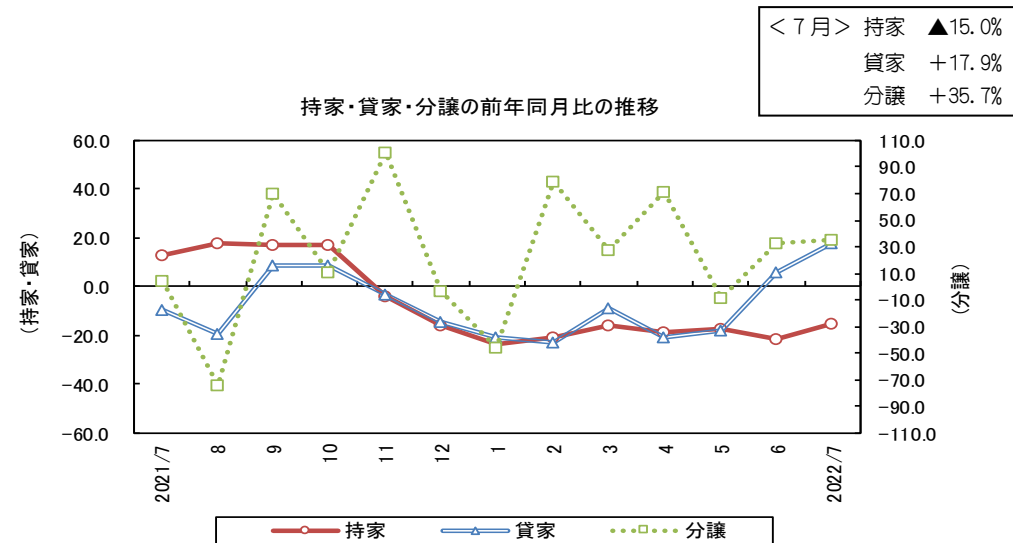
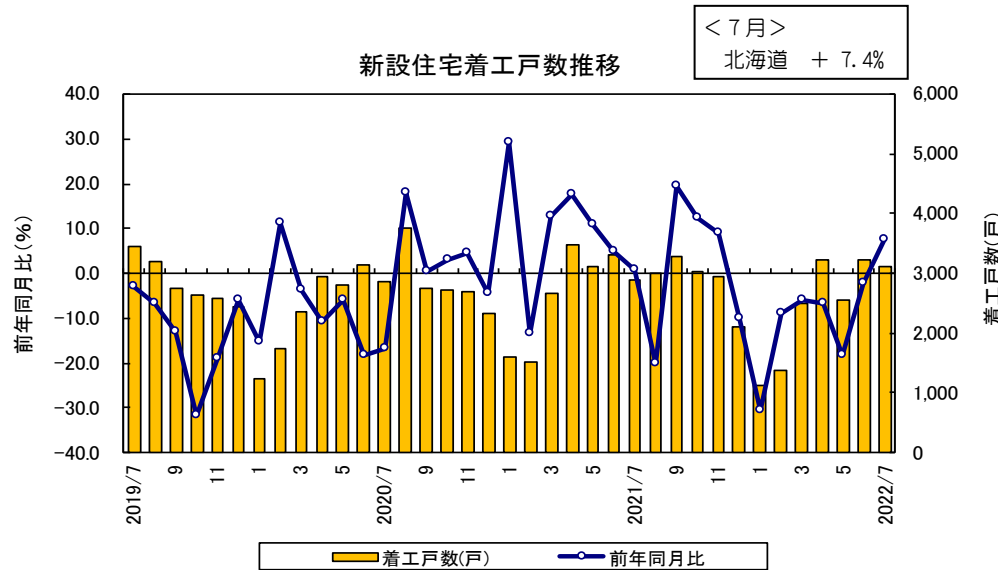
国 ▲23.2% 道 +12.7% 市町村 +14.9% その他 +27.2%

（請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額）

（資料：北海道建設業信用保証（株）ほか2社）

住宅建設 ～ 一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる ～

7月の新設住宅着工戸数は、持家は前年を下回ったが、貸家、分譲が前年を上回り、前年同月比7.4%と8か月ぶりに前年を上回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2022年度の設備投資計画は、全体で前年度比+12.5%と3年ぶりに前年度を上回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2022年7月1日発表

	2021年度	2022年度
北海道	▲ 5.5%	+ 12.5%
製造業	▲ 37.0%	+ 33.9%
非製造業	+ 13.2%	+ 5.5%
全国	▲ 0.8%	+ 14.1%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2022年6月13日発表

	2021年度	2022年度
全産業	▲ 19.5%	+ 39.1%
製造業	▲ 19.2%	+ 32.4%
非製造業	▲ 19.6%	+ 40.7%

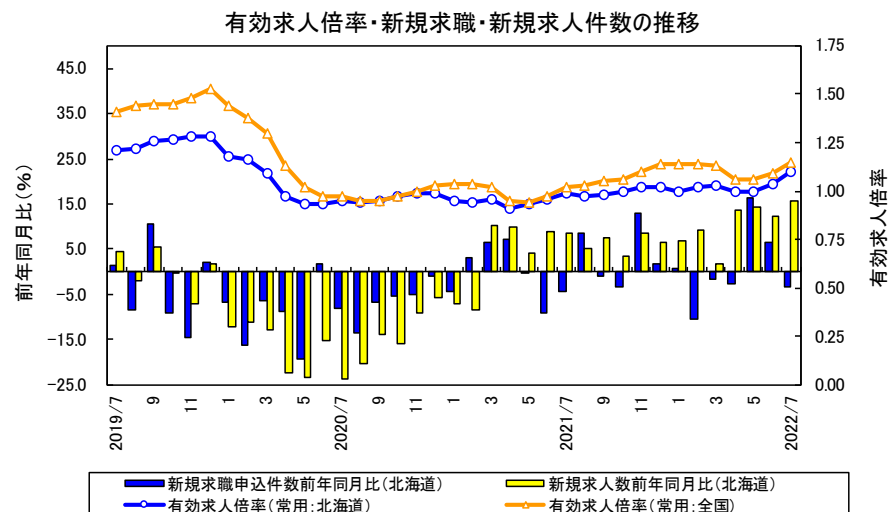
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

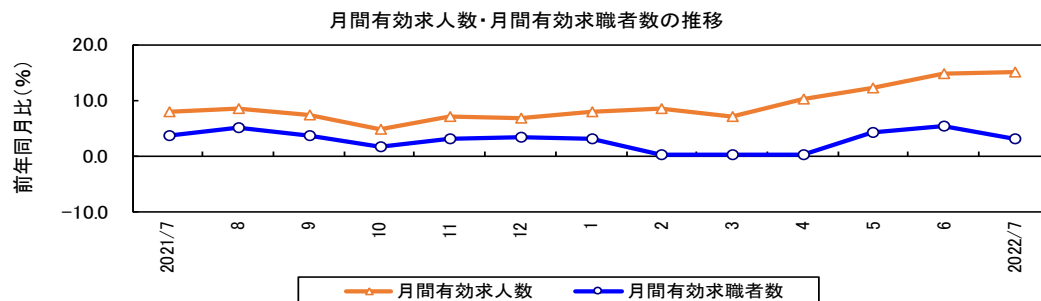
雇用動向 ～ 弱い動きがみられる ～

7月の有効求人倍率は、1.10倍と前年同月差0.11ポイント上昇し、14か月連続で前年を上回った。



< 7月 >			
全 国	有効求人倍率(常用)	1.10倍	
	新規求職人数(前年同月比)	+15.8%	
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲ 3.3%	
	有効求人倍率(常用)	1.15倍	

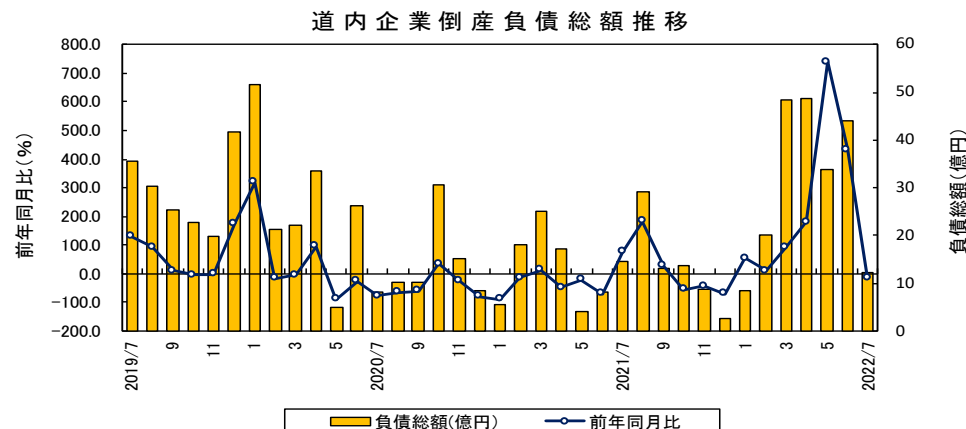
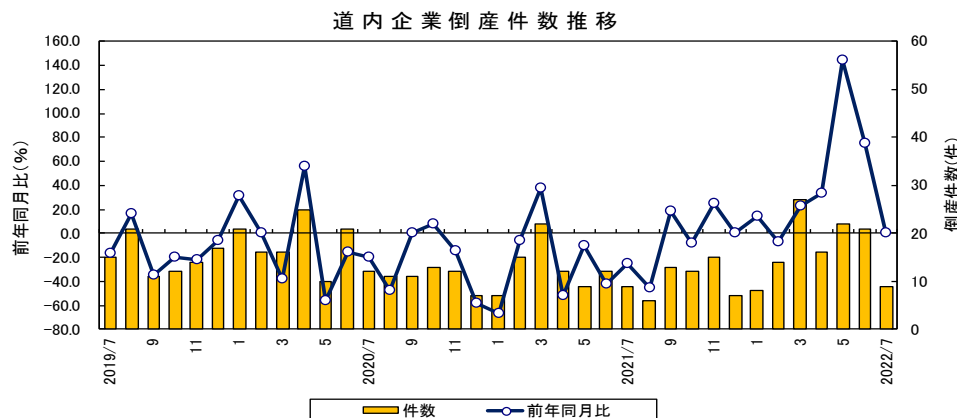
< 7月 >	
月間有効求職人数(前年同月比)	+15.3%
月間有効求職者数(前年同月比)	+3.2%



(資料: 厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数は同数、負債総額は減少した ～

7月の倒産件数は9件で、前年同月と同数となった。また、負債総額は12億円で、同▲16.1%と7か月ぶりに前年を下回った。



(資料: (株)東京商工リサーチ)